

(9) スモモ

〔果樹類>落葉果樹>核果類>小粒核果類>すもも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するために、袋かけ栽培が望ましい。
灰 星 病	開 花 期 および 果実肥大終期	・花では、花弁やガクが腐敗して褐変する。成熟期の果実で発病すると褐色に軟腐し、果実全体が灰色の胞子で覆われる。 ・雨が多いと発生が増加する。 ・花腐れを防ぐには、開花直前と満開直後に薬剤を散布する。 ・果実に少しでも発生すると、急激に二次感染が進むので、収穫の1か月前～収穫直前に薬剤を散布する。
ふくろみ病	休 眠 期 ～ 開 花 直 前	・開花終了後まもなく果実が異常生育し、豆さや状に肥大する。 ・「ソルダム」系品種は発病しやすいので、対策が必須である。 ・発生に気付いた時点で手遅れなので、必ず休眠期や発芽前に薬剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u> 。
環 紋 葉 枯 病	生 育 期	・収穫期～梅雨明けの期間が低温多雨で推移すると、谷合などで発生しやすい。 ・発生初期に防除する。
黒 斑 病 か い よ う 病	[耕種的防除]	・スモモに発生する細菌病として、黒斑病(モモのせん孔細菌病と同一の細菌)やかいよう病がある。 ・枝や果実表面のキズを防ぐため、防風垣や防風ネットを設置する。
	休 眠 期	・ボルドー剤を散布する。
	生 育 期	・袋かけが終了するまでの防除には、毎回、生物殺菌剤を混用し、感染予防に努める。ただし、抗生物質薬剤は生物殺菌剤の生菌を死滅させるため、生物殺菌剤と抗生物質薬剤は混用しない。 ・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
切り口および傷口 の ゆ 合 促 進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	・モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ等が加害する。 ・常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・スモモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にスモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
コスカシバ	休 眠 期 (開花期まで)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に薬剤を散布する。 ・新芽の薬害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼 虫 発 生 期	・主幹や主枝、特に虫糞が見られるところを中心に薬剤を散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成 虫 発 生 初 期 (5月上～中旬)	・この時期は、成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて、防風垣や防風ネットを設置する。効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	果実肥大期	・これらの害虫は発生が見られたら、すみやかに薬剤を散布する。
ケムシ類 (イラガ)	生育期	
ハマキムシ類	生育期	
シンクイムシ類	果実肥大期 ～成熟期	・果実への食入が始まる前に、薬剤を散布する。
カイガラムシ類	(共 通)	・スモモを吸汁加害するカイガラムシ類として、ウメシロカイガラムシやナシマルカイガラムシがある。
カイガラムシ類 幼虫	休眠期	・ 休眠期防除参照
	生育期	・カイガラを形成すると薬剤の効果が著しく低下するので、幼虫のふ化を確認して、ふ化最盛期に薬剤を散布する。
ハダニ類	生育期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・手遅れにならないよう、発生初期に防除する。 ・収穫期と重なることがあるので、収穫前日数に注意する。
スモモミハハチ	開花期～ 落弁期	・成虫は開花期のがくに産卵し、幼虫は落弁直後に幼果に食入するため、満開期から落弁期に薬剤を散布する。

スモモ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									かいよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口のゆ合促進
すもも	ICボルドー412	銅水和剤	M1		-	-	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布					30倍	
すもも	アミスター1070アブル	アゾキシストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000倍			
すもも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			2000~3000倍			
すもも	スターナ水和剤	ホリニク酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布					1000倍	
すもも	ストロビートライロアブル	クシキムチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布				2000倍		
すもも	チノックアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		500倍				
すもも	トリアミン水和剤	トリフルゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000倍			
すもも	トレノックスアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		500倍				
すもも	チアWDG	ピラオクストロビン・ボスカリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		2000倍	2000倍			
すもも	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		収穫3日前まで	4回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布					500倍	
すもも	ベルクトアブル	イミクタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		収穫3日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			2000倍			
すもも	マイコシールド	オシテトラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布					2000倍	
すもも	ムッシュボルドーDF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布		500倍			500倍	
すもも	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000~1500倍			
小粒核果類	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000~1500倍	1000~1500倍		
小粒核果類	フルツセイバー	ベンチオキサド水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1500倍	1500倍		
小粒核果類	マスタビス水和剤	シュートモスロシア水和剤	「-」(生)		収穫前日まで	-	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1000~2000倍					
小粒核果類 (うめを除く)	オルフィンアブル	テブコナゾール・フルオビラム水和剤	「-」(*)、3		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	散布			3000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

